

京野菜を通じた国際理解・コミュニケーション及び 歴史・文化の紹介プロジェクト

代表者 岡本 大樹

企画画用 外国の方が日本に来て文化や風土の違いによって、困っていることや不安の種となるものが多くある。その中でも食べ物に焦点をあてて、何か手助けをできることがあるのではないかと考え、企画した。

結果報告 京野菜に対するアンケートを幅広い層に実施。対象者として観光客・京都の一般人・店の人・農家・外国人である。理由としては様々な視点から京野菜というものを調査して、それによって現状把握をすることが目標であった。

感想 今年一年間、活動を行ってきたわけだが、思ったようにいかない点がいくつかあった。それを以下にあげる。

- 計画通りに行くこと
- 企画時に実現可能性を考慮していなかったことや具体性がなかったことによって、目標がどこにあるか少し見失っていたこと
- みんなをうまく使えなかったこと

などである。ひとつめの問題点はたしかに計画通りに行かないことは日常茶飯事であるが、みんなのスケジュールを管理し、何か行う時には連絡をスムーズにまわし、的確に指示する必要があった。ふたつめとして、計画を作った段階であまりに抽象的すぎることを計画しすぎたような気がする。それによって、到達すべき目標点が曖昧になり、どう進むべきかが見えにくくなってしまった。一番の問題点としてあげられるのが、三番目の問題点である。計画者自身が道を見失っていることによって、何かをするときに方向性を示してあげられていなかった。また、僕自身がみんなに仕事をもっと分担させるべきであった。そのためにワンマン的な活動になってしまっていた。そうしてしまうといろんな可能性が失われてしまい全く問題外である。以上のようなことが活動の反省点である。このように全くといっていいほどうまくはいかなかったものの、得ることはあったような気はする。組織を運営する難しさ、計画を実行する難しさ、決断力の必要性、積極性その他様々な経験をすることができた。これからの人生において、必ず役に立つであろう能力の一端に触れることができたと思う。